

令和 2 年 6 月 16 日現在

機関番号：33912

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02091

研究課題名(和文)文化と産業が融合する産業観光モデル構築に関する研究

研究課題名(英文)A study of the construction of industrial tourism fused in culture and industry

研究代表者

古池 嘉和(koike, Yoshikazu)

名古屋学院大学・現代社会学部・教授

研究者番号：50340063

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：衰退の危機に或る伝統的な産業は、その地域が蓄積してきた文化資源の蓄積を生かすことによって、新たな生業(産業)が創造される可能性を持っている。それは、文化資源を物語として編集し、消費者(観光客)との関係を再構築することで実現できる。

本研究では、近代化の過程において広域的な分業で隆盛を極めた名古屋とその周縁に広がる陶磁器産地(瀬戸/美濃)を例に、文化と産業が融合する産業観光モデルによって、新たな産業創造の可能性が開けることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

陶磁器産業の衰退要因として消費者との関係性が「貨幣を媒介した経済」関係に重点が置かれ、地域の文化資源ストックとの関係が希薄化したことにあることが分かった。地産の伝統産業は、その歴史的な過程の中で蓄積された文化資源を「物語」として編集して、消費者との接点を測る「物語観光」の推進により、時代に即応した産業(生業)として蘇生可能であることが分かった。すなわち、生産文化(観光)生産の循環を生む観光モデルである。それは、今日でも産業の基盤のある地域のみならず名古屋市のような産業の基盤が乏しくなった地域でも広域的な物語(意味づけ)によって、新たな生業を創造可能なことが、社会実験の過程で検証された。

研究成果の概要(英文)：Traditional industries, facing the danger of declining, have the potential to create new industries by making use of the cultural resources accumulated in the area. This can be achieved by integrating cultural resources as stories and rebuilding relationship with consumers as well as tourists. In this study, the example of ceramic production areas (Seto/Mino) was illustrated as having a cooperative division of labor with Nagoya, the export base of modern ceramic. The author made it clear that the possibility of industrial creation was assisted by an industrial tourism model in which culture and industry were fused.

研究分野：文化経済学、文化政策学

キーワード：物語観光 伝統産業 文化資源ストック 産業と文化の循環 広域連携

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

産業観光は、学としての体系が模索されていた。その方向は、観光現象の中で「産業遺産（特に、近代化を進めた産業遺産）観光」を位置づけ、その内実を深めていくものであった。実務的にも、この流れを汲んでおり、産業観光を「歴史的・文化的価値の高い産業文化財を観光資源として位置づけ、これを観光客誘致に向けた諸事業を展開する」こととされていた（「産業観光サミット in 愛知・名古屋」）。その一方で、「リビングヘリテージ」という概念が提唱され、「今に伝わる有形・無形を問わない人間の諸活動に関わる人間の総括的な文化遺産」（藤木庸介編著『生きている文化遺産と観光』学芸出版社、2010）としている。こうした流れを汲んで、産業と文化が融合した形で、産業観光を考えることの必要性が高まっていたと考えた。

2. 研究の目的

産業観光は、産業としての使命を終えた産業文化財を文化として評価する側面と、産業として生きた姿自体を観光資源として捉える側面がある。前者は、必然的に歴史的・遺産的価値が「文化」として観光資源化される。対して後者は、「産業」とのシナジー効果を持つ点が重要であり、産業振興の視点も加味する必要がある。そこで本研究では、「産地」としては、産業遺産的な要素が強い名古屋陶磁を、生きた生産地である瀬戸や美濃とのつながりの中で（文化資料体の分析を中心に明らかにした上で）考察し、「文化」と「産業」が融合する産業観光モデルを構築することを目的とする。

3. 研究の方法

研究方法は、基礎調査（文化資料体分析）では、主に業界内に蓄積されていた文献調査を実施した。例えば、名古屋の輸出陶磁器については、一般財団法人名古屋陶磁器会館に保存されていた資料を基に整理した。また、瀬戸の輸出陶磁器については、公益財団法人日本陶磁器意匠センターに保管されていた輸出陶磁器の「意匠」を中心に分析し、当時の製品の特性などについても整理した。モデル構築段階では、「広域産業観光研究会」を立ち上げ、下記に掲載されている文化財／施設系論者に加え、地域／観光側として、地元シンクタンクと JTB の研究者で構成した。

【広域産業観光研究会】

広域的な産業観光モデル構築にむけて、瀬戸／美濃、名古屋の各地域において、有益な知見を有し、また、実践活動を行っている識者による研究会を立ち上げ、モデルの検証を行った。その成果については、以下の報告書に取り纏めている。「文化と産業が融合する産業観光モデル構築に関する研究（研究会報告書）」令和2年3月、名古屋学院大学古池嘉和

（掲載論文）

- ① 「文化と産業が融合する産業観光モデル構築に向けて（名古屋学院大学／古池嘉和）」掲載ページ（1～4頁）
- ② 「瀬戸市における歴史文化を活かした観光政策（瀬戸市地域振興部参事兼瀬戸市美術館館長／服部文孝）掲載ページ（5～9頁）
- ③ 「愛知の陶産地とやきもの～名古屋周辺、瀬戸、常滑、高浜周辺～」（元愛知県陶磁美術館主任学芸員／田村哲）掲載ページ（10～19頁）
- ④ 「やきものがつなぐ地域の未来」－名古屋陶業の歴史（公益財団法人横山美術館館長／鈴木俊昭）掲載ページ（20～24頁）
- ⑤ メイキング・オブ『明治のやきもの街道』展（岐阜県博物館学芸員／立花昭）掲載ページ（25～29頁）
- ⑥ 「名古屋絵付け」伝統的職人技を「のこしたえる」取組について（厚生労働省認定1級陶磁器製造技能士／杉山ひとみ）

4. 研究成果

衰退の危機に或る伝統的な産業は、その地域が蓄積してきた文化資源の蓄積を生かすことによって、新たな生業（産業）が創造される可能性を持っている。それは、文化資源を物語として編集し、消費者（観光客）との関係を再構築することで実現できる。

本研究では、近代化の過程において広域的な分業で隆盛を極めた名古屋とその周縁に広がる陶磁器産地（瀬戸／美濃）を例に、文化と産業が融合する産業観光モデルによって、新たな産業創造の可能性が開けることを明らかにした（上記、古池総括論文①）。

【各論考に基づく成果と到達点】

地域資源は、ただそこに存在するだけでは、人々の来訪意欲を喚起する手がかかりとはなりにくい。特に、非可視的な資源（例；ものづくりの場としての歴史や雰囲気、語りとして受け継がれている物語、人に付随した伝統的な技法など）は、可視的な資源（街並みや坂道、細街路や散策路、工場や煙突、ギャラリーや美術館などの施設）を編集した「場」を通じて、より深く感じることができる。そのため、地域資源を編集することが、来訪意欲を高める上で大きな効果を生むことになる。特に、エリアが限定的な地域では、例えば、散策路（例として、常滑の「やきもの散歩道」、瀬戸の「陶の道」、多治見の「オリベストリート」など）として編集することで、来訪者が視覚的にも地域を知ることができるようになる。

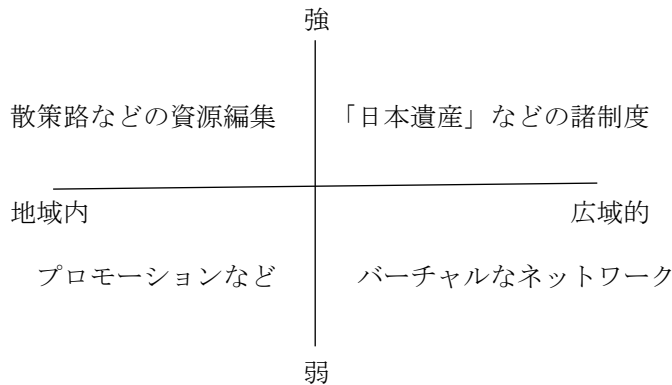
今回、調査を行った瀬戸／美濃と名古屋の関係は、近代化の過程の中では、産業として深く繋がっていた「歴史」を有するが、今日では、産業面でのつながりは希薄であり、広域的なエリア

の中で、資源が分散しているにすぎない。もちろん、瀬戸／美濃においては、今日も産業として息づいているため、地域内における産業観光は散策路などの資源編集による「強い物語化」によって可能である。同時に、地域内の資源を活用したプロモーションなどの「弱い物語化」でも、エリアが限定的であれば、一定の効果を発揮することができる。

しかし、エリアが広域的に広がる（例えば、瀬戸／美濃に名古屋を含める）と、産業としての資源以外にも文化資源として蓄積しているものを含め、空間的に強い繋がりを示す「物語」が必要となる。瀬戸では、別の広域的な枠組みとして「日本遺産（きっと恋する六古窯）」の物語が認定されている（瀬戸、常滑、越前、備前、信楽、丹波）が、広域的なエリアになるとよほど強い物語がないと効果が低いことは、上記、服部論文②で検証されている。

他方、美濃と名古屋をかつて繋いでいた「明治のやきもの街道」を、現代の通信技術を用いて行った展示会の有益性は、立花論文⑤で検証されている。バーチャルなネットワークは、限定的なエリアにおける散策路ほどの「物語編集力」を伴わないが、広域的なエリアの産業／文化資源を編集する上における有益性が確認できた。

図1 エリアと物語編集の関係



(筆者作成)

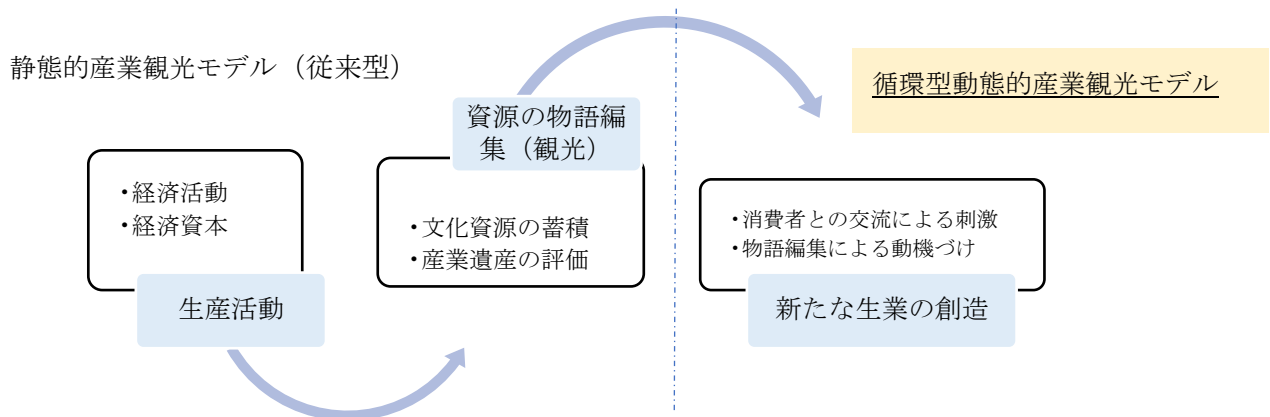
【研究活動において生まれた社会的効果】

輸出陶磁器産業として、既に、主たる命脈が途絶えた名古屋において、物語を形成する過程において社会的な波及効果を確認することができた。鈴木論文④においては、かつて一斉を風靡した輸入陶磁器の「里帰り品」を中心に、各種の企画展示を行う美術館（横山美術館）が開館（2017年10月1日）し、瀬戸や美濃との繋がりの深い「名古屋絵付け」の作品展示が行われている。ソフト面でも、人に付随した伝統的な技の継承という非可視的な資源をつないでいく活動が生まれ、それらを契機とした創造的な生業が生まれつつある。その際、瀬戸や美濃などに蓄積された諸資源が有益であったことが確認されている（これらについては、杉山論文⑥で検証されている）。

【循環型動態的産業観光モデルの有用性】

歴史上の生産活動において、経済資本として生かされていた工場や煙突などは、生産の縮小などに伴い、産業遺産として再評価されることがある。こうした従来型の産業観光モデルでは、産業遺産は、単なる消費（文化）財となり、観光の持続性にも限界がある。対して、本研究において提示した「文化と産業が融合した産業観光モデル」は、単に産業遺産としての文化的な評価による観光行動を誘発するに留まるものではなく、地域における物語創造を契機としつつ、新たな生業（産業活動）の創造を生み出す循環型のモデルであり、創造と消費が循環する結果、観光としての持続性を発揮し、地域にダイナミズムを生み出すことが可能になるのである。

図2 文化と産業の融合による産業観光（循環型モデル）



(筆者作成)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 古池嘉和	4. 巻 第55巻第4号
2. 論文標題 地域ブランド化の研究 波佐見を例に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 名古屋学院大学論集(社会科学篇)	6. 最初と最後の頁 43 - 49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古池嘉和	4. 巻 第54巻第4号
2. 論文標題 物語、観光と文化資本	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 名古屋学院大学論集(社会科学篇)	6. 最初と最後の頁 183 - 189
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15012/00001067	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 古池嘉和	4. 巻 第54巻第3号
2. 論文標題 意匠認証制度から見た瀬戸輸出陶磁器の特徴(その2) 1970年7月~1975年6月の実態分析	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 名古屋学院大学(社会科学篇)	6. 最初と最後の頁 265 - 273
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15012/00000982	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 古池嘉和	4. 巻 30
2. 論文標題 瀬戸と名古屋の文化・観光資源	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 名古屋学院大学研究年報	6. 最初と最後の頁 67 - 75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15012/00000970	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 古池嘉和	4. 巻 第53巻第4号
2. 論文標題 意匠認証制度から見た瀬戸輸出陶磁器の特徴(その1)- 1970年7月～1971年6月の実態分析-	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 名古屋学院大学論集(社会科学篇)	6. 最初と最後の頁 81-94
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.15012/00000898	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件(うち招待講演 3件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 古池嘉和
2. 発表標題 文化と観光の形～白川郷・五箇山を例に～
3. 学会等名 国際文化政策研究教育学会 / 形の文化会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 古池嘉和
2. 発表標題 陶磁器と文化観光～瀬戸焼・常滑焼を例に～
3. 学会等名 文化政策セミナー2018(国際文化政策研究教育学会)(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 古池嘉和
2. 発表標題 文化資本としての物語観光 近代輸出陶磁器を例に
3. 学会等名 文化経済学会 日本
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 古池嘉和
2. 発表標題 多治見市における産業・文化資源活用政策の一考察
3. 学会等名 日本文化政策学会（第11回年次大会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 古池嘉和
2. 発表標題 文化と産業が融合する産業観光モデル構築 近代輸出陶磁器産業を例に
3. 学会等名 第2回県大ふくい創生フォーラム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 古池嘉和
2. 発表標題 伝統工芸や観光を活かした地域づくり 文化的価値共有(コモンズ)を元に
3. 学会等名 自造社區設計社群(社區産業新思惟研討會)臺南市政府文化局(招待講演)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----